

# “I am Third”

こ けつ たか し  
古 結 章 司

この季節を迎えると、街には讃美歌も含め、多くのクリスマスソングが流れてくる。中学部の頃から、「ああベツレヘムよ」（「讃美歌21」・267番）が大好きである。しかし、ここ数年、讃美歌以外にも、心に「ぐうっ」と迫る曲がある。そのメロディーは、物悲しくあるのだが、なぜか希望に満ち溢れ、何とも言えぬ人としての温もりを、感じさせてくれるのだ。

ジョン・レノンの「ハッピー・クリスマス」がその曲である。You Tube では、戦場に悲しむ子供たちのまなこ、涙、傷ついた子を抱きしめる母の映像などとともに流れてくる。そう、この曲の副題は「War Is Over」。クリスマスに平和を願う曲でもある。「弱い人も強い人も、裕福な人も貧しい人も、黒い人も白い人も、黄色い人も赤い人も、やめようあらゆる争いを」と、歌は続く。

“So this is Christmas, And what have you done・・・”。この最初のゆったりとしたフレーズを耳にするたびに考えさせられる。世界が平和であるために、ささやかでもいい、自分はこの1年何かしてきたのかと。そんな時、いつも頭をよぎるのが、“I am Third”という言葉である。

“I am Third”。この言葉は、アメリカで有名な元フットボール選手ゲール・セイヤーズの著書のタイトルでもある。プロ時代、癌と闘うチームメイトとの友情が綴られている。セイヤーズは、日本で例えればプロ野球の長嶋・王選手に匹敵する英雄だ。大学、プロを通じて、大活躍したランニング・バック（RB）だった。その彼がこう語っている。

"The Lord is first, my friends are second, and I am third."

ランバス記念礼拝堂の隣の「吉岡記念館」は、創設者ランバス先生のあとを継いだ吉岡美国第2代院長の名を冠している。その吉岡院長が好んだ言葉のひとつが「敬神愛人」。中学部礼拝堂入口に大きな自書が掲げられている。この言葉も“I am Third”と通じ合うものがある。世界中の人びとが、“I am Third”の思いで日々を過ごせば、まさに「ハッピー・クリスマス」が、世界にやってくるに違いない。

（吉岡記念館・主幹）